

印度雑記帳

伊勢 司

みなさんは、バラナシとインド人が国内旅行先として聞けばどのようなイメージを持ってでしょう。テレビや雑誌などで一度はこのような光景を目にしたことがあるかと思いますが、「ガンジス河に沿って長く続く階段（ガート）、日の出とともに一日は始まり、沐浴そして祈りを捧げる人々。またその横では24時間決して絶えることのない炎によって、死者は遺灰となりガンジス河へ流されていく」。これらの光景がバラナシの日常であり、またヒンドゥー教徒にとっては一生に一度は訪れたい場所として語られます。そして二千万人もの

所、それがバラナシでした。さて、ここからは実際に生活する中で経験してきた数々の珍?!エピソードの中から、今回は「一人暮らしの始め方」について紹介したいと思います。留学にはまず住む場所をどうするかという問題があります。例えば、インド留学における主要テーマが「観光学」であった僕にとって、バラナシという町は住みながらにホームステイなどがあります。僕の場合、当初は現地の家族とのホームステイを選択、しかし結局はアパートでの一人暮らしに

。というのも、はじめは昔からの知り合いでバラナシに住む大家族のニシャード家、その家にホームステイすることになっていました。ニシャード家はちょうど僕の留学時期に新築への引っ越しを予定。その絶好の機会を捉えて、僕が引っ越すことになりました。新築らしきと言っているよ。いやいや、これではさすがに住めません。さっさと探していると、徐々に

。というのも、はじめは昔からの知り合いでバラナシに住む大家族のニシャード家、その家にホームステイすることになっていました。ニシャード家はちょうど僕の留学時期に新築への引っ越しを予定。その絶好の機会を捉えて、僕が引っ越すことになりました。新築らしきと言っているよ。いやいや、これではさすがに住めません。さっさと探していると、徐々に

バラナシに暮らして

どのように探すのかという状況もできていません。この状況を前にしても、ニシャード家の大黒柱で友人のサテイス君は白い歯をこぼしながら笑顔で言います「住むなら、この辺に空き部屋があるか知りませんか？」という地道な方法です。そうして探していると、徐々に



いよいよ一人暮らしの始まり…

完成しているとは言えないものだったからです。特に問題なく進んでいると聞いていた作業も、建物の扉を開くと中には裸電球が一つ吊るしてあるだけ、水道は本のように部屋貸しの仲介業者は基本的にありません。や、間借り部屋(ご飯付も決まりひと安心、となら